

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ラソン		公表日		2026年2月18日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動内容に合わせた、グループの人数、使用する療育室の調整を行っています。 ・パーテーション等を活用し、周囲からの刺激を減らす等、環境調整に努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員の配置は、配置基準を満たしています。また、セラピスト（言語聴覚士、公認心理師、理学療法士）を配置し、専門的な助言を得て支援に活かしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・完全なバリアフリー化には至っていませんが、手すり設置やトイレ増設等の環境整備を順次進めています。お子さまが安全かつ円滑に活動できるよう、ハード面の充実を継続的に図っています。 ・手すり設置やトイレ増設等の環境改善を進めるとともに、各コーナーの保護や段差の視覚化を徹底しています。物理的な配慮と細やかな環境調整により、事故防止と安全確保に努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・各種感染症対策として、日々の清掃・消毒および定期的な換気を徹底し、衛生的で清潔な環境維持に努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・必要に応じて、個室や衝立等を準備し、一人で過ごせる環境を準備しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・日々のミーティングでは、経験年数に関わらず全職員が発言できる環境を整え、目標設定や課題改善に向けた活発な意見交換を行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者からの意見は、早急に対応できるようミーティングの場で話し合い、改善に繋がっています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・チーム会議、日々のミーティングの場では管理者やチーフだけでなく、職員全員が意見できる運営に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部研修や勉強会に加え、オンラインで学べる「スペシャルラーニング」の活用を推進しています。職員が個々の状況に合わせて専門知識や技術を習得できる環境を整え、支援の質の向上に努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムをHPで公表し、年間計画と日々の指導案に基づく組織的な支援を実践しています。毎日ミーティングによる振り返りで支援の一貫性を確保するとともに、保護者様へは活動の「ねらい」を丁寧に共有し、支援の質の向上と相互理解に努めています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・保護者や本人への聞き取りと合わせて、担当者を中心としてチーム職員やセラピストの意見を聞き、多角的な視点で客観的に分析するよう努めています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童発達支援管理責任者、担当者、チーム職員、セラピストによる多角的な意見交換を基に、お子さまの将来を見据えた最適な支援の在り方を検討し、計画策定を行っています。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・必要に応じて、WISC-V、国リハ式（S-S法）言語発達遅滞検査等のアセスメントツールを活用しています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・放課後等デイサービス計画は、ガイドラインに基づき、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」について、児童発達支援管理責任者、担当者を中心に話し合い、項目を設定して支援内容を検討しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・お子さまの興味・関心や課題を反映したプログラムをチームで検討し、実践しています。実施後はミーティング等で意見交換を行い、得られた気づきを次の改善に繋げることで、一人ひとりに最適な支援を追求しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・年間でプログラム内容を計画しています。また、毎月チームで意見交換を行い、お子さまの実態に応じて再検討し、さまざまなプログラムを実施しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日、支援実施前に打ち合わせを行い、プログラムのねらいや個別の支援方法についてチームで確認し、再検討を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・必要に応じて支援実施後にクラス担当者同士で課題や改善事項等について振り返りを行い、翌日のミーティングでは、チーム全体で前日の支援を振り返る場を設けています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		・活動中や選択遊びの内容等、事業所で過ごす時間の中で、お子さまが選んだり、友だちと話し合っ決めてたりできる機会を作っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者やケース担当者が参加しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて関係機関と連携を図りながら、お子さまやご家族が安心して過ごせるように努めています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校との情報共有においては、学校の先生方も多忙であるため、直接のやりとりや電話連絡、書面等、先生方の負担が増えないよう努めています。
関	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・児童発達支援事業所との連携は図れていますが、保育所等との連携には課題を感じているため、連携強化に努めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・他事業所で実施されている公開療育への職員参加や児童発達支援センターで開催されている研修会等を活用して、取り組みを学んだり助言を受けたりしています。

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		・児童クラブ等との交流はありませんが、特別支援学級へ在籍しているお子さまは日頃より交流学級のお子さまと過ごす機会があります。 ・同法人の他事業所のお子さまと合同で夏祭り等の行事を企画し、他の学校を利用しているお子さまと活動する機会を設けています。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・理事長が自治体の子ども部会委員を務め、協議会へ参画しているほか、法人として児童発達支援センター会議に継続して参加しております。行政や地域とのネットワークを活かし、最新の施策動向の把握や地域課題の共有に努めています。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・保護者向けにペアレント・プログラムを実施しています。また、保護者からの子育ての相談においても、ペアレント・プログラムの視点からの助言や情報提供を行っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約の際に、運営規定や支援内容、利用料等について説明を行っています。また、保護者からの質問、相談には随時対応しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・個別支援計画については、お子さまの良いところに着目した前向きな計画の作成を行い、保護者への丁寧な説明に努めています。必要に応じて見直しを行い、同意を得ています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・日々の引継ぎ、個別相談会の案内、必要に応じて個別相談、電話相談を随時実施し、ご家族も安心して過ごせるよう助言や情報提供に努めています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・同法人内の他事業所と合同で保護者会を実施しています。また、保護者ときょうだい児が楽しく過ごせる機会として、きょうだい児支援会を実施しています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者からの苦情に対しては早急な対応に努め、第3者委員会にて対応が適切であったが判断をいただいています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・関係機関との情報交換については事前に保護者から了承を得てから実施しています。 ・個人情報記載書類について、施錠できる書庫にて保管管理をしています。
保 護 者 へ の 説 明 等	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・事業所単独では難しいこともありますが、法人全体で秋まつりを実施する等、地域に開かれた事業運営に努めています。
非 常 時 等	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各種マニュアルの策定、職員会議での研修、防犯訓練の実施等を実施し、各種マニュアルは保護者閲覧用に事業所玄関に設置しています。 ・保護者へはおたよりで避難訓練の予定をお知らせし、実施した内容については保護者へ説明しています。

の 対 応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・事前に服薬等の健康状態については確認を行い、服薬が必要な際は、服薬依頼書を保護者に記入していただき、服薬時には複数の職員で確認し、誤与薬の防止に努めています。		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
非 常 時 等 の 対 応	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		・ヒヤリハットを作成し、事業所内で再発防止策を検討しています。また、同法人内でヒヤリハットを共有し、各ヒヤリハットの事例を通して、より安全な支援の検討、実施に努めています。		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修の実施だけでなく、日頃のことば遣い、関わり方等、虐待につながる小さな芽から摘み取る意識を高め、チームで虐待防止に取り組んでいます。		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・身体拘束等の原則禁止を徹底しています。お子さまがパニック等により負傷する恐れがある場合は、保護者様と事前に協議した方針に基づき、刺激の少ない場所への誘導や環境調整を優先的にを行い、身体を拘束しない形での安全確保と情緒の安定に努めています。		